

2014年9月号

9月15日(月)発行

釧路湿原国立公園

温根内ビジターセンター

# 月刊 温根内通信 No. 216



## 釧路湿原の秋 いきものたちの秋

8月中旬の台風が過ぎると湿原の空気は入れ替わり、爽やかな秋の空になりました。一面に咲いているヨシの花がよりいっそう秋を演出しています。

長い渡りの準備をするもの、子孫を遺して命を終えるもの、厳しい湿原の冬に備えるもの…。一見静かな秋の湿原では、いきものたちの様々な生き延びるための活動を観察することができます。

☆☆☆温根内ビジターセンター 探勝木道周辺の自然情報☆☆☆



～温根内探勝木道周辺の植物～



**【ツリフネソウ】**  
 ツリフネソウ科 釣舟草  
 ハンノキ林内の木道沿いでよく見られます。花が終わると棍棒状の蒴果ができて、触るとはじけて種を遠くへ飛ばします。



**【オオバセンキュウ】**  
 セリ科 大葉川弓  
 夏の終わりから秋に咲く背の高いセリ科の草本です。湿原内でも比較的乾いたところや鶴居軌道跡沿いの湧水地周辺で見られます。



**【ゴキツル(実)】**  
 ウリ科 合器蔓  
 ミズゴケ湿原手前のハンノキ林で見られます。どんぐりの様な実は熟すと下半分が割れ、中の2つの大きな種は湿原内に落ちます。



**【ウメバチソウ】**  
 ニシキギ科 梅鉢草  
 ヨシ・スゲ湿原で見られます。2cmほどの白い花をよく見ると、たくさんの仮おしべが見られます。湿原の花のシーズンを締めくくる美しい花です。



**【エソリンドウ】**  
 リンドウ科 蝦夷竜胆  
 ミズゴケ湿原周辺のハンノキ林内で見られます。緑色がくすみ始めた湿原内では淡い青紫がひととき目を引きます。



**【エソトリカブト】**  
 キンボウゲ科 蝦夷烏兜  
 鶴居軌道沿いで見られます。烏帽子型の花は虫たちが花粉をうまく媒介できるよう一番奥に蜜腺があります。猛毒を持つ植物としても有名です。

○表紙の写真 上:ミズゴケ湿原 中右:交尾をするリリボシヤンマ 中左:コサメビタキ(幼鳥) 下:キアゲハ(終齢幼虫)

## ～温根内探勝木道周辺の野鳥～

今年生まれの幼鳥がすっかりたくましくなり、夏鳥たちの早いものでは既に渡りが始まっています。留鳥のカラ類は群れを作り周辺の森でにぎやかに飛び回っています。秋の訪れを告げる旅鳥も上空を飛び声が聞こえ始めました。ビジターセンターでは無料で双眼鏡を貸し出ししています。お気軽にご利用ください。



【アカゲラ】  
キツキ科 赤啄木鳥 留鳥  
アカゲラの親鳥も子育てが落ち着いたようで、のんびりと餌を探していました。ハンノキ林やVC裏の森で見られます。



【センダイムシクイ】  
ムシクイ科 仙台虫食 夏鳥  
「チヨチヨピー」でおなじみでしたが、8月下旬に群れを作り、9月中には南へと渡っていきます。次に出会えるのは来春です。



【エナガ(幼鳥)】  
エナガ科 柄長 留鳥  
ビジターセンター周辺ではエナガの群れが頻繁に見られるようになりました。「ジュルジュル」という地鳴きが聞こえたら探してみましょう。



【オオジュリン(換羽中)】  
ホオジロ科 大寿林 夏鳥  
頭の黒かったオスが地味な冬羽に換羽中でした。ヨシ原の中にいるので見つけにくいですが、9月下旬までは見られます。

### ○温根内探勝木道周辺で観察された花(8月15日～9月14日) ※和名は五十音順

■アキノウナギツカミ ■アメリカセンダングサ ■イケマ ■イチゲフウロ ■イヌタデ ■イワアカバナ ■エゾイヌゴマ ■エソイラクサ ■エゾオオヤマハコベ ■エゾシロネ ■エゾゴマナ ■エゾトリカブト ■エゾナミキ ■エゾノコギリソウ ■エゾヤマアザミ ■エゾリンドウ ■オオダイコンソウ ■オオバコ ■オオバセンキュウ ■オオバノヤエムグラ ■オオヨモギ ■オトギリソウ ■カタバミ ■カラハナソウ ■キツネノボタン ■キツリフネ ■キンミズヒキ ■クサフジ ■クサレダマ ■クルマバナ ■ゲンノショウコ ■コウゾリナ ■コガネギク ■ゴキツル ■コタヌキモ ■コハコベ ■サワギキョウ ■シオガマギク ■シロツメクサ ■セイヨウタンポポ ■セイヨウノゴギリソウ ■セリ ■タニソバ ■チドリケマン ■ツメクサ ■ツリガネニンジン ■ツリフネソウ ■トウヌマゼリ ■ドクゼリ ■ナガボノシロワレモコウ ■ネジバナ ■ノハラムラサキ ■ハナタデ ■ハンゴンソウ ■ヒメジョオン ■ヒヨドリバナ ■ヘラバヒメジョオン ■ホザキシモツケ ■ホソバアカバナ ■ホソバノヨツバムグラ ■ホソバイラクサ ■マツヨイセンノウ ■ミズ ■ミゾソバ ■ミツガシワ(季節外れ) ■ミツバフウロ ■ミツバケンケイソウ ■ミツモトソウ ■ミミコウモリ ■ムラサキツメクサ ■メマツヨイグサ ■モウセンゴケ ■ヤナギタンポポ ■ヤブジラミ ■ヤブハギ ■ヤブマメ ■ヤマハギ(木本) ■ヤマハハコ ■ヨシ ■ヨブスマソウ

### ○温根内探勝木道周辺で観察された鳥(8月15日～9月14日) ※和名は日本鳥類目録第7版の順

■ヒシクイ ■キジバト ■アオバト ■アオサギ ■タンチョウ ■クイナ ■カッコウ(幼鳥) ■アマツバメ ■オオジシギ ■トビ ■オジロワシ ■ハイタカ ■ノスリ ■コゲラ ■アカゲラ ■チゴハヤブサ ■モズ ■ハシボソガラス ■ハシブトガラス ■ハシブトガラ ■ヒガラ ■シジュウカラ ■ヒヨドリ ■ウグイス ■エナガ ■エソムシクイ ■センダイムシクイ ■メジロ ■コヨシキリ ■ゴジュウカラ ■キバシリ ■ノゴマ ■ノビタキ ■コサメビタキ ■ピンズイ ■カワラヒワ ■ベニマシコ ■アオジ ■オオジュリン

※旬の自然情報についてはお気軽にスタッフまでお尋ねください。

※温根内木道周辺に咲いている花を折ったり持ち帰ったりしないようお願いします。また、木道から降りて写真を撮ることはおやめください。皆様が気持ちよく散策・観察できるようご理解とご協力をお願いします。

☆☆☆☆自然ふれあい行事が開催されました☆☆☆☆



○「ザリガニウォッチング」8月17日(日) 参加者数：19名  
はじめに日本のザリガニと外来生物について学んだ後、新釧路川右岸堤防へ移動し、特定外来生物のウチダザリガニ釣りを行いました。親子連れの参加者が目立ち、はじめはなかなかうまく釣りあげられませんでした。慣れてくると協力して餌に食いついたザリガニをタモ網ですくい上げるなど、徐々にザリガニ釣りに慣れていきました。釣ったウチダザリガニはじっくりと観察した後、背ワタを抜いて処分し、ビジターセンターへ持ち帰りました。



○「トンボのふしぎ」9月6日(土) 参加者数：7名  
知っているようで意外と知らないトンボについて、形態や生態についてビジターセンターで学んだ後、実際にトンボを捕まえて観察しました。捕まえたトンボを手にとって観察してみると、大きさや色、オスとメスの違い、種類の違いなどが分かり、講師の佐々木氏の分かりやすい説明を聞きながら捕まえたトンボの種の同定を行いました。なお、捕まえたトンボはじっくりと観察した後、湿原へ帰しました。



○「初秋の湿原花ハイク」9月7日(日) 参加者数：4名  
花の季節もそろそろ終わりに近づいた温根内木道で、パークボランティアの若山氏を講師に観察会を行いました。湿原の基礎知識に加え、サワギキョウやウメバチソウなど、秋の湿原を代表する植物を観察したほか、湿原の植物と人との関わりの歴史についての話などを聞くことができました。また、「(私的)秋の七草探し」を行い、参加者は秋の湿原でお気に入りの植物を見つけて楽しみました。

☆☆☆☆イベントのご案内(10月)事前の申し込みが必要です☆☆☆☆

○温根内ビジターセンター ⇒お申し込み☎0154-65-2323  
♪秋の湿原ハイク  
〔日時〕10月19日(日) 10:00～12:00 〔定員〕15名(小学生は保護者同伴)  
〔参加費〕無料 〔場所〕温根内ビジターセンター

○塘路湖エコミュージアムセンター(あるこっと) ⇒お申し込み☎015-487-3003  
♪蜜ろうそくを作ろう  
〔日時〕10月18日(土) 13:00～15:00 〔定員〕8名(小学生は保護者同伴)  
〔参加費〕700円(材料費) 〔場所〕塘路湖エコミュージアムセンター

♪バードカービング講座1回目(全5回:10/19、11/16、12/14、1/25、2/22)  
〔日時〕10月19日(土) 10:00～15:00 〔定員〕15名(小学生は保護者同伴)  
〔参加費〕4500円(材料費) 〔場所〕塘路湖エコミュージアムセンター

～スズメバチにご注意を!～



秋はスズメバチが活発に活動する時期です。木道を歩く際には黒い服装をできるだけ避け、匂いの強い香水も控えるようお願いします。

月刊 温根内通信 No.216

発行：釧路湿原国立公園 温根内ビジターセンター  
〒085-0036 北海道阿寒郡鶴居村字温根内  
Tel: 0154-65-2323 Fax: 0154-65-2185  
E-mail: ovc@hokkai.or.jp  
ホームページ: <http://city.hokkai.or.jp/~kkr946/>

Facebook: <https://www.facebook.com/Onnenai.VC>

開館時間: 10:00～17:00(11月～3月は16:00まで)  
休館日: 毎週火曜日(12/29～1/3は休館) 入館無料